

日本ロシア文学会東北支部 2016年研究発表会 プログラム

日時：2016年7月2日（土） 13：30－16：30

場所：岩手県立大学アイーナキャンパス 学習室3
岩手県民情報交流センター（アイーナ）7F
盛岡市盛岡駅西通 1-7-1

* アクセスについてはアイーナHP（<http://www.aiina.jp/access/access.html>）をご覧ください。

日程

発表1 13：35 - 14:25

借用語の動詞に付加される接頭辞 **ВЫ-**

堀口 大樹（岩手大学）

要旨

ロシア語の接頭辞付加は、借用語の動詞に対しても生産的に行われる。発表者は、200の借用語の両体動詞を集め、新聞データベースにおいて、これらの動詞への接頭辞付加を調査している。接頭辞は動詞を完了化したり、動作の程度の強弱などのアスペクト的意味をもとの動詞（本研究では基動詞と呼ぶ）に加えたりする。200の基動詞に対する各接頭辞の付加率は様々である。例えば、接頭辞 **за-**は87,5%の動詞に付加されるのに対して、接頭辞 **вз-**は1%の動詞にしか付加されない。

本発表で考察する接頭辞 **ВЫ-**は、動作がある結果に到達することを示す。その付加率は37,5%で、接頭辞全体では特に目立つわけではない。しかし、接頭辞 **ВЫ-**はほぼ特定の構文でのみ用いられる点で他の接頭辞とは異なる。本発表ではその構文の特徴や、なぜその構文において接頭辞 **ВЫ-**が用いられるかの諸要因を考察する。

休憩 14:25 - 14:35

発表2 14:35 - 15:25

言語接触による単一言語話者の母語の変化——中央アジアロシア語の変化の過程と様態

柳田 賢二（東北大学東北アジア研究センター）

要旨

隣接の諸言語が系統にかかわらず互いに似てくることを意味する「言語同盟」

という現象の存在は言語学においてよく知られている。しかし、「単一言語話者の母語がピジン化してしまうことなどあり得るのか？また、複数世代を経たとしても、ピジン化を経るのでなければ単一言語話者の母語が互いに通じない言語と似てくることなどあり得ないのではないか？」という疑問も理に適っており、我々が言語接触を論じるに当たって常にそれを感じるのは当然のことである。通じもしない言語が単一言語話者の母語に影響を及ぼすことがあるとすれば、それはいかなるプロセスを通じて起こるのだろうか。——現在のウズベキスタンのロシア語単一話者のロシア語において起こっている現象は、この問いに対する答を考える際の鍵となる可能性がある。今回はウズベキスタンの若年層のロシア語単一話者のロシア語の音韻面を題材に考えたことを発表したい。

休憩 15:25 - 15:35

発表 3 15:35 - 16:25

チャーホフの短編『賭け』添削の体験から

木村 崇

要旨

3, 40年ほど前、名古屋の私立大学に勉強していたとき、隔週一回の頻度で、社会人たちがロシア文学作品の訳を持ち寄って私の研究室で読み合わせ、私が随時訂正や解説する会を開いていました。その中の一人で、定年退職後ふたたびロシア文学の翻訳をしてみたいとあってチャーホフの短編『賭け』の訳文を送って来た人がいました。その添削は予期しないほどの労力を要しました。その過程でロシア語教育や翻訳作法を教えるさいの典型的な諸問題に気付きました。今回の報告ではそれを紹介して、皆様のご意見をお聞かせ願えばと思います。

連絡事項 16:25

閉会 16:30